

第4回観光戦略策定委員会会議録

【日時】2023年3月22日(水)13:30～

【場所】嬉野市役所嬉野庁舎3-1会議室

【出席者】

- ・委員：出口委員(委員長)
山田委員(副委員長)
山口委員、北川委員、中山委員、副島委員、山崎委員(オンライン)、森委員、
宮崎委員、大久保委員、松下委員、橋爪委員、辻本委員
- ・市長
- ・産業振興部長
- ・観光戦略統括監
- ・観光商工課長、副課長、主査
- ・アイデアパートナーズ(株)

(主な意見)

(観光戦略についての意見)

【委員A】

- P58 戦略の推進体制に旅館組合の記載が無い。

【委員B】

- 旅館組合の他にも女将の会なども入れてはどうか。

(委員会、今後の嬉野観光について)

【委員C】

- P50 基本施策の中に、インバウンド受け入れ体制の充実とあるが、嬉野市民がインバウンド客に対し歓迎する雰囲気があれば良いと考える。台湾・韓国・中国の航空会社が九州に就航予定だが、観光客が戻った時に福岡や長崎に来た観光客が、佐賀県内や嬉野市で少しでも消費が増えるように今後もできることがあれば取り組んでいきたい。

【委員D】

- 他の市町村の観光戦略の策定にも携わっているが、市民がこれほど参加しているのは嬉野市が一番だと感じる。嬉野市内で更地になっている場所を観光用の駐車場にしたりするなどすれば、嬉野市の将来が見えてくる。今後、嬉野市が観光客に向けてどのように変化していくかを見るのが楽しみ。市民全員が観光戦略を手にとってみたい。「嬉野」は面白いことをしているとわかる情報発信をしてほしい。高付加価値化に関しても様々な

補助があるので、活用いただければと思う。

【委員 E】

- ヒアリングを徹底して行っているので、市民の声が戦略に反映されている事が嬉しい。
- パブリックコメントは、市民が観光戦略を知る機会になると考える。
- 観光戦略を実践していくことが重要なので、市民、子育て世代、事業者にとっても良い嬉野になってほしい。

【委員 F】

- P52 の基本施策 嬉野・塩田・吉田をつなぐ取り組みコンテンツ作りが気になる。地産地消で地域を巻き込み経済を循環させていく必要がある。温泉を原点としてつなげていければと思う。
- 地域を巻き込むイベントについては、広域的に結びつく必要性が今後出てくると思う。
- 空き店舗対策で経済を回していく動きが塩田で出てきている。市の中でも範囲を広げて取り組んでいきたい。

【委員 G】

- 料飲店組合としては、市役所の各課と個別に話をして進めていきたい。
- 少子化、過疎化が進んだ際に行政としては、どのような対応をしていくのか。
- 給食費値上げの話が挙がっているが、子育て世代支援として値上げの見送りに協力してほしい。

【委員 H】

- 窯元組合としては今後、吉田への来訪客を増やしたいと考えており、肥前吉田焼窯元会館の来館者数・売上をコロナ前の2~3倍に増やしていきたい。現在の来館者の大半は宿泊者であることから、嬉野市全体の取り組みにつながると思う。文化的な面でも吉田も嬉野の観光の目玉にしていきたい

【委員 I】

- 嬉野茶の品質の保持を重視して組合でも取り組んでいる。品質の保持に取り組まないと価格競争で負けてしまう。
- 高付加価値化を進めているが、本当に対価に見合っているのか。嬉野で宿泊の予約が取れない現状を今後どうしていくのが課題だと考える。

【委員 J】

- 商店街はお客様と一番身近に接する場であるので、物を売るだけでなく、様々なふれあい

や会話がある。その中で「また嬉野に来たい」という言葉が一番嬉しい。商店街としてもマルシェ等の企画をする際に市と商店街で話し合う場が欲しい。

- アフターコロナや新幹線の効果で観光客が2倍になって戻ってきた感覚があるが、昼食をとる場所が無いという声があるので、空き店舗の活用や、家賃補助等で新しいテナントが入ってこられるように考えている。
- 駅から商店街に歩いてこられる観光客に向けて、道路に明るい名前を付けるということを商店街で話し合いをしている。

【委員 K】

- 今後もこのように意見交換ができる場を作ってほしい。
- 観光業のやる事が変わらず、プレイヤーが減っていく中で、棚卸をしながら今の時代に最小限必要なことを残していく取り組みが必要だと考える。目指したい旅館経営に合った労働環境を整えていきたい。
- 定期的な勉強会、情報交換ができる場が必要。情報格差が生まれない仕組みを作ってほしいと思う。

【委員 L】

- KGI 達成に向けて、計画と実践をしていきたいと思う。今後の嬉野のためにも活動への協力をお願いしたい。

【委員 B】

- 観光従事者でない方や現場からの委員の意見が観光戦略に反映されていることが良いと感じた。
- K 委員が述べたようにこの会議が終わりではなく、今後もこのように話し合いができる場を検討していただきたい。

【委員 M】

- 観光戦略が無い地域がある中で、戦略が策定できたことはとても良いと思う。今後、観光地として戦っていく基礎になるものであるから。基礎があると課題があった際に差替えることが出来る。戦略ができたので、今後、アクションプランを作成していく中で、様々な意見を出していただければと思う。
- 個人的には KGI・KPI はもう少し高めで設定しても良いと思う。ゆくゆくは経済波及効果そのものを KGI に設定し、他の産業の方を巻き込んでいけるように進めてほしい。観光は数字が無いことが多く、観光以外の方々に説明する際の材料として非常に重要になってくるので、丁寧にやってほしい。
- まちづくりは終わりが無いので、このような意見交換の場は是非続けていただきたい。実

施計画をアクションプラン化した際に誰がやるのか、役割と機能を明確にしながら取り組んでいただきたい。「誰かがやる」ではなく、自らの取り組みが経済活動になったほうが良いので。

●推進体制が決まって動けるようになって初めてスタートラインに立つことが出来る。計画策定の際も是非呼んでほしい。

【委員 N】

●観光戦略はまだまだ改善の余地があるが、戦略と戦術を区分することが出来る良い内容になったと思う。戦略をどのように戦術に落とし込むのか、皆さんで連携して取り組んでほしい。

●戦略の上に大戦略があり、嬉野市に当てはめると大戦略は総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略になる。どのような街を目指すのかがあり、その下に今回の観光戦略がある。次期総合計画策定の際には今回策定した観光戦略と連動しながら見直しが必要になってくる。戦略(観光戦略)は、大戦略と照らし合わせながら戦略を修正していくものでもある。

【市長あいさつ】

●幅広い意見を聞き、前向きなアイデアに変えていきたいという思いの表れから、まずは嬉野の産業の幹にもなる戦略からはじめて実践していきたいと思う。高校生や子育て世代等の観光戦略の中で意見を取り入れたことは大きな前進である。観光地として選ばれる嬉野市を育てていかなければいけない。心の底から「嬉野はお勧めしたい観光地」といえるようにしていかないといけない。それがシビックプライドの醸成に繋がる。若い世代の流出という課題があるが、自分の地域を誇りに思っていれば、いつか戻ってくると考える。その意味では基礎となる戦略ができた。観光施策は戦略的にしていく必要がある。

●コロナ禍で旅行支援等がある中で、消費単価を上げようとしているさなかで、お得感で釣るのは問題があるので、観光客に価値を認めていただき相応のお金を払ってもらうための意識付けをしてもらうことでトップランナーになっていくことができる。新幹線開業やコロナ禍を経験したからこそできた戦略だと思うので、危機感をベースに様々な意見を頂けたことに感謝している。